

会 議 録

会議の名称	令和3年度第1回枚方市青少年問題協議会	
開催日時	令和3年10月4日	開始時刻 16時00分 終了時刻 17時45分
開催場所	ラポールひらかた 3階 研修室1	
出席者	会 長：小牧委員 副会長：木田委員、 委 員：荒委員、川元委員、野澤委員、範委員、長谷川委員、花房委員、 羽室委員、平岡委員、山中委員、山本委員	
欠席者	田邊委員	
案 件 名	1 枚方市の自殺の状況と対策について 2 枚方市子ども・若者育成計画の進捗状況について 3 その他	
提出された資料等の名称	資料1 枚方市の自殺の状況と対策について 資料2 枚方市子ども・若者育成計画 改定版 令和2年度 進行管理報告書（案） 参考資料1 ひきこもり等子ども・若者相談支援センター 枚方市子ども・若者支援地域協議会 令和2年度の活動報告 参考資料2 枚方市青少年問題協議会 委員名簿 参考資料3 枚方市子ども・若者育成計画 ～ひきこもり等の子ども・若者の自立に向けて～ 改定版	
決 定 事 項	1. 枚方市の自殺の状況と対策について、報告を受けた。 2. 「枚方市子ども・若者育成計画」の進捗状況について説明を受け、委員から出された意見を踏まえ、計画に基づき引き続き各施策の取り組みを進めることを確認した。	
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開	
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表	
傍聴者の数	0人	
所管部署（事務局）	枚方市役所 子ども未来部 子ども青少年政策課	

審 議 内 容

<p>小牧会長</p>	<p>それでは定刻となりましたので、ただいまより令和3年度第1回枚方市青少年問題協議会を開催いたします。</p> <p>今年度の第1回目の協議会ということで、委員の皆様の中には、前委員から交代され、初めて御出席いただいている委員もおられます。</p> <p>後ほど、事務局から本日御出席の委員の御紹介をいただいた上で、審議へと入っていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の議題ですが、報告としまして、「枚方市の自殺の状況と対策について」について、事務局から説明いただきます。</p> <p>その後、案件といたしまして、「枚方市子ども・若者育成計画の進捗状況について」御意見を賜りたいと考えております。</p> <p>なお、本日は、午後5時30分を目途に終了したいと考えておりますので、委員の皆様には、スムーズな進行と活発な御発言に御協力をお願いいたします。</p> <p>それでは初めに、事務局から本協議会の委員の御紹介、また、事務局の職員についても、併せて御紹介をお願いいたします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>皆様、こんにちは。</p> <p>本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。</p> <p>それでは初めに、子ども未来部長より、御挨拶を申し上げます。</p>
<p>横尾子ども未来部長</p>	<p>皆様、こんにちは。</p> <p>本日は御多忙のところ、令和3年度第1回青少年問題協議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、日頃から、本市の青少年の健全育成に御尽力、また、お力添えをいただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに、心からお礼を申し上げます。</p> <p>さて、現在、本市では本協議におきまして御審議いただきました「枚方市子ども・若者育成計画」〈改訂版〉に基づきまして、困難を有する子ども・若者の支援など、様々な取組を推進しているところでございます。</p> <p>ひきこもりや不登校、ニート等の問題は、社会的な背景をはじめ、様々な要因が複合的に絡み合っており、本人や家族だけが抱える問題というわけではなく、社会全体で一緒に考え支えていく必要がございます。</p> <p>本市におきましても、ひきこもりの長期化や社会からの孤立化を防ぐために、「枚方市子ども・若者支援地域協議会」等のネットワークを生かしながら、地域や関係機関と連携し、支援につながっていない困難を有する子ども・若者やその家族により早く情報を届け、相談支援窓口等につなげることができるよう、引き続きさまざまな取組を進めてまいります。</p>

<p>(事務局)</p>	<p>本日は委員の皆様には、本計画の進捗状況等につきまして御審議いただければと考えております。</p> <p>それぞれのお立場から、どうか忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、本日の協議会が今年度初めての開催となっており、また、新たに就任された委員の方々もいらっしゃいますので、改めて会長も含めまして委員の皆様を、順に御紹介させていただきます。</p> <p>(委員紹介)</p>
<p>(事務局)</p>	<p>それでは次に、恐れ入りますが、事務局の職員を紹介させていただきます。</p> <p>(事務局職員紹介)</p>
<p>小牧会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>皆様、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、続きまして事務局から委員の出席状況及び資料の確認をお願いします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>本日の委員の皆様の出席状況ですが、出席委員は12名で、枚方市青少年問題協議会条例第5条第2項の規定に基づき、本協議会が成立していることを御報告申し上げます。</p> <p>なお、本日の傍聴者はございません。</p> <p>それから、本日の会議につきましては、会議録を作成させていただきます。記載の内容の正確性を期すため、補助的に会議内容を録音させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(配布資料確認)</p>
<p>小牧会長</p>	<p>それでは、本日の議題へと入ってまいりたいと思います。</p> <p>「報告」の「枚方市の自殺の状況と対策について」についてですが、担当部署から説明をいただけるということですので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>案件1 枚方市の自殺の状況と対策について、御説明をさせていただきます。</p>

<p>小牧会長</p>	<p>(資料1に基づき説明)</p> <p>ただいま、事務局から枚方市の自殺の状況と対策について、説明がありました。ここまでの説明につきまして、御質問などがありましたらお願いいたします。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>この問題につきましては、現場の声等をぜひお聞きしたいなと思いますので、学校関係に所属の委員や花房委員、簡単に何でも結構ですので、御意見いただければありがたいです。</p> <p>それぞれの学校で、子どもたちの自殺を防ぐためにどのような取組が必要なのかとか、あるいは学校の状況とかも含めまして、御意見をお願いしたいと思います。</p> <p>順番に、平岡委員さん、いかがでしょうか。</p>
<p>平岡委員</p>	<p>私、枚方高校にこの4月に着任しまして、その前は府教委にいまして、その前は、定時制の高校の校長もしております、実際、枚方高校の生徒の状況もそうなのですが、私は定時制の経験もありますので、本当に支援の必要な生徒と関わったこともありますので、実際このような協議会、大事だと思いますし、どのような形で支援していくかということを、とても個人的にも関心をもっております。</p> <p>まず、高校の独自の取組というより、まず府立高校として、どのような支援体制があるかということに、まず触れたいと思うのですが、全ての府立高校には、スクールカウンセラーを月1回は全校に配置しています。</p> <p>それから、生徒支援のためのコーディネーターを担う教員を配置というか、教員の中でそういう役割を担うのですが、その先生がそういった生徒支援のために、仕事がしやすいように、2時間の非常勤の時間を配当してもらっています。授業が少なくできるということです。</p> <p>それから、いじめ対策委員会の設置、生徒支援及び生徒相談委員会を設置するというようなことが決められているわけです。</p> <p>それから、年に2回はいじめであったり、それから安全安心な学校生活を送るためのアンケートを実施することも全府的に行っているところです。</p> <p>こういった仕組みを活用しながら、どのように学校で生徒支援をしていくかということなのですけれども、自殺に特化した委員会というのは、正直もちろんございません。</p> <p>ただ、本当にその悩みがあったり、支援が必要な生徒は追い詰められていくと、それが今いじめという言葉が出てますので、いじめに限らず家庭の問題であったり、金銭的な経済的な問題であったり、保護者との関係性であったり、そういったことがまた輻輳したり、単純にある事象でということではないと思うのですけれども、とにかく悩みがある生徒をどのように支援していくかとい</p>

うことで、本校においては、生徒支援委員会というものを毎週開催しております。そして、学校全体で生徒の状況を共有して、支援していくという体制を取っています。

先ほど申し上げたスクールカウンセラー、これが予算の関係で月に1回しか、今のところ来られない状況なのですが、その支援委員会のあるときに、その人が来られるように、月に1回は必ず参加してもらって、指導助言をもらう。そして、必要に応じて、別途、教育委員会のほうに依頼をかけるのですが、ちょっと重たいケースがありますと、スクールカウンセラースーパーバイザーという人をまた呼んで、支援してもらうという形を取っています。

その週に1回行われる生徒支援委員会というのは、構成員は本校においては、教頭、主席、生徒部長、保健主事、それから生徒相談の担当者、人権教育の委員長、養護教諭、各学年の代表ということで、10人程度の委員会です。本校の教員の数、常勤が60名ほどですので、大体6人に1人は委員であるということで、ほぼ全ての生徒のことが、問題があればそういう形で支援できるという体制を取っています。

実際にスクールカウンセラーの活用は、昨年度でしたら延べ30件程度の相談がありました。それから、生徒相談室という場所をつくりまして、そこで必要に応じて活用しています。

先ほど申し上げたアンケートなのですが、本校では10月と12月に実施していきまして、もちろんいじめがありますかとか、嫌なことはありませんかとか、いわゆるハラスメントですね、そういったことも聞くのですが、自由記述欄に少し工夫をしております。何か課題があったときだけ、そこを書くのですね、何か書きにくい、あるいは何かあったと思われるので、何もなければ、こういう文章を写してくださいというふうに生徒たちをお願いしています。つまり、いじめのない社会とか、学校づくりが大事と考えますとか、クラスづくりにしたいですというような言葉を作っておいて、全員がそれを書くということです。そうしたら、何か悩んでいても書きやすい、話しやすい雰囲気づくりを工夫しています。

そのアンケートで少しでもしんどいという言葉が出てきたり、そういう項目を選んでいる生徒には、必ず全員に聴き取りを行って、そうしたらそこで本当におさまってしまうケースが大半なのですが、過去には、そこから生活の大変さとかを抱えた生徒のことが分かったということを知っています。

です。年間通じて、4月、5月は担任による面談、6月、11月は保護者への懇談、それから7月、夏休み前には人権のホームルームをする、8月全校集会で困ったことがあったら伝えなさいと伝える。そして10月、12月はそういったアンケート、というように年間を通じて、何か分かるような機会をつくって行って、漏れのないようにと考えています。

その仕組みだけではなくて、やはり大事なことは、常に教員がアンテナをどれだけはりめぐらせられるかということだと思っています。本当にささいなこ

<p>小牧会長</p>	<p>とでも、共有できることが大事ですし、それを機運にすればそれでいいことなので、ちょっとした気付きを先生たちがどれだけでもてるかということ、常々言っています。</p> <p>そのためには正直、委員会とか仕組みも大事なのですが、一番大事なのは先生たちがどれだけ余裕を持って、生徒と接することができるかという、事件の起こる前に、事象が起こる前に、どれだけ先生方が生徒と向き合えるかというところ、なかなか忙しいのですけれども、そういうものが大事かなということ、常々共有しています。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>続きまして、山中委員、お願いします。</p>
<p>山中委員</p>	<p>本校は小学校ですが、教科教育等の中で、命の大切さというのは、小さい頃から教えていかないといけないと考えます。例えば、特別な教科・道徳であったり、11月に修学旅行で広島に行きますが、平和学習の中で命の大切さというのを、しっかりと学ばせていきたいと思っています。</p> <p>それと、つなげるということがすごく大事ではないかなと思っています。本校も不登校の子がいますが、なかなか保護者の方と話すことも、連絡することも難しい現実があります。ですが、粘り強く保護者の方とお話をして、学校だけではなくて、地域のコミュニティや、地域の民生委員さん、市の相談窓口とかにつなげていくことは、すごく大事だろうなと思っています。</p> <p>これは先ほどの先生も言われたように、学校の教員が相談できる大人になり、児童や保護者の方に寄り添うことで、子どもや保護者の方たちのしんどさを共感するというようなところが大切ではないかと思っています。</p> <p>ゲームの中では殺すとか、死ぬとか、消えるとかというのが、当たり前だけれども、バーチャルではなく実際の中では、そんな大変なことはないというのを、いろんなところで感じたり、教えたりしていく必要が、特にあるのではないかと思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>小牧会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>続きまして、山本委員、お願いします。</p>
<p>山本委員</p>	<p>いわゆる生徒指導体制で言えば、本校も同じように、前任校からそうなのですが、生徒指導という、いわゆる「指導」という言葉をなくして、うちも「支援」という言葉を中心にしています。</p> <p>ただ、生徒指導部というのは、生徒支援部に名称を変えたりとか、その言葉を変えるだけですけれど、言葉を変えることによって、先生らの意識も変わる</p>

と思っています。学校から指導という文化をなくしていくということは常々言っています。「指導」じゃなくて「支援」だと。支援もサポートじゃなくて、アセスメントだよみたいなことを言い続けてやっていく。

それで、私たちは「ミニケース会議」と呼んでいるのですけれど、週に1回、1時間だけということで、課題のある子をピックアップしまして、クラス担任とかが孤立しないような会議を行っています。孤立してしまう可能性があるのですね、抱え込んで。なので、SSWが配置されていた前任校の場合は、週1回、SSWを交えてやっていました。今は異動してきて、山田中学校ではSSWがついてないので、SSWなしで、ちょっと一回やってみようかなみたいな感じで、空き時間と言ってますが、中学校の場合は授業のない時間がありますので、そこをうまく操作してね、1学期は何回かやりました。

そのねらいは、1時間だけで終わる、その子どもを語るみたいな感じです。その子の家のこととか、小学校からいろんなデータももらって、小学校のときどうだったかなとか、そういう情報交流というか、そんなのをやるようにしました。今も時々しています。ただ、どうしても授業がたくさん詰まって、大変だったということにもなってしまうので、実際、今は特に行事とかが10月にたくさん入ってきていますので、なかなか開催できていません。

ただ、枚方高校の校長先生もおっしゃっていたように、先生の子どもへの見方が、大きく変わっていったのかなと思うのですね。この子はこんなことをしているけれど、やはり何かあるのでは？みたいな思いになっていくとか、その感性的な部分が、大分磨かれていったのではないかなと思います。そうなれば、別にやる必要はないかなというところもあるので、そんな感じがしているので、そういう会議の続きをしています。

また、話が変わって、自殺という話となってくると、これは難しいのは、死にたいと思っている子はいるのですよ。それで、死にたいということと言われたときに、果たして私たちは、どう向き合ったらいいのかということですね。

皆さんもね、僕らは最前線で子どもと接していると、死にたいと言ったときにどう捉えますか？ というのは、どう捉えますかというのは、それをほっといて何を冗談言っているねんみたいな感じで流すか、でも、流してしまって本当に死んだらどうなんねんという最悪のケースのことをどうしても考えます。捨て置けないじゃないですか、死にたいと言ったことに対してね。

それに対して、だんだんエスカレートしてきて、自殺未遂的な行動をとる。それが、果たして冗談、冗談と言ったら悪いですけど、本気なのかうそなのかという見極めはね、非常に難しいです。

だから、実はそれを繰り返す子がいて、いろいろ警察にもお世話になっている子がいるのですけれども、そうなったときに、やはり学校としてというか、ほっとけないということなので、関わりを深めます。でも、やはり外に助けを求めないといけないというときは必ず来ます。ここ最近出ています。その原因はいろいろあります。よく、自殺があったら、学校でいじめがあったのと違う

	<p>かと、すぐ学校というのがそういうふうに疑われるところがあります。そういうことも日々ありながら、僕らは言っていないかどうか分からないけれど、親子関係も含めて家庭にもかなりいろいろ課題もあるんじゃないかなというのは思いながら、日々接しているわけなのです。13、14、15年生きてきた歴史がありますからね。学校なんかは、たかだかしれているわけですから、そこに培われてきたものというのがあります。だから、親御さんとのやりとりもしますけれど、「うちの子は死にません」みたいなことを言われてしまうと、じゃあそうなんですか、それなら、これは冗談なんですか、ほっといていいのですかとなってしまつとね、そうもいかないだろうという悩みもあってですね、なかなかその辺の加減というのが、難しいなというふうに思います。ただ、やはりそういうことを、例え冗談であっても、もしそういうことを表出した場合は、周りの大人がやっぱり本気を出して、いろんな関係機関を含めて、本気で向き合ってほしいなと思うのですね。それが例え冗談と違うかと思っいても、本気で向き合っあけてほしいなと思います。</p> <p>以上です。</p>
小牧会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>花房委員さん、これまでに何かありますか。</p>
花房委員	<p>児童思春期外来をやっているのもあって、この自殺の増加というのは、やっぱりこちらを感じるというか、未遂者は、昨年も確かに通院中の方ではいました。</p> <p>それよりも、自傷、自死念慮というので、入院依頼されるケースとかが、昨年から本年度すごく増えています。特に思春期女子は常に満床みたいな形で、自殺が若い子で増えているというのと連動して、こちらも満室です。女子、男子、区切りをつけているので、男子は空いているのが、女子がいっぱいで入院を取れないとかという状況が、最近ずっと続いているなというところがあります。</p> <p>やっぱり、そういうしんどさを抱えている人は、家庭も複雑だったりとか、親の接し方であったりとか、外国籍であったりとか、そういう複雑な環境です。あと、やっぱり貧困だったりとか、いろんなことが絡まっているなというところで、医療だけではなかなか解決できないところもあって、地域の児相だったりとかと連携しながら、治療しないといけないのですけれど、高校生年齢とかになつてくると、本当に児童相談所も手を引いてきていたりだとか、なかなか関係機関の連携も難しくなつてきてしまうので、本当に大変なケースは、できるだけ早い間に、中学生年齢までの間に紹介いただけると、こちらもやりやすいなと思っながら診ているところではあります。</p>
小牧会長	<p>ありがとうございます。</p>

	<p>いろいろな情報をいただいて申し訳ないのですが、お時間も来ているので、報告についてはここまでとして、次の案件へと入っていきたいと思います。</p> <p>それでは、続きまして、案件の枚方市子ども・若者育成計画の進捗状況について、事務局から御説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>案件2 枚方市子ども・若者育成計画の進捗状況についてについて、御説明をさせていただきます。</p> <p>(資料2、参考資料1に基づき説明)</p>
小牧会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>事務局から、枚方市子ども・若者育成計画の進捗状況について、説明をいただきました。</p> <p>ここまでの説明につきまして、御意見、質問等があればよろしくお願ひします。</p> <p>それでは、御意見がありましたら、どうぞ。</p>
荒委員	<p>民生委員のほうには、ひとつめの案件のような自殺もそうですし、ひきこもりについてという、相談というのはほとんどないのですけれど、これは私も民生委員をさせていただいているのですが、あっても自殺関係で1件相談があつて、ひきこもりのほうについては、私にも、ほかの委員にもほとんど相談がないですね。</p> <p>特に直接相談がない、それで近所の人からよく子どもさんを見るのだけれど、民生委員さんは、何か御存じですかという程度の相談ですね。</p> <p>だから、実際にそういった相談ごと、毎日ひきこもっているということ、民生委員で確認して、民生委員のほうで、解決できない部分については、関係機関につなぐというのが、一番、民生委員としての大きな仕事になりますが、ほとんどないというのが通常ですね。学校のほうと、私どもの校区、中学校、小学校合わせて3校あるのですが、定期的に民生委員との連絡会というのをもっているのですが、そういう自殺とか、ひきこもりについて、特に学校のほうからは報告がないのです。</p> <p>不登校については、毎回いろいろと内容というのか、御説明をいただいて、見守りの対象として、させてもらっています。</p> <p>民生委員児童委員協議会として、ひきこもりは別の担当の委員が入っているのですけれど、私は青少年問題協議会を担当していますので、ひきこもりのほうというのは離れております。また、機会を見つけて、研修もやっていきたいなどは思っております。</p> <p>今はコロナの関係で全く研修ができない状態ですが、また、できるようになったら、委員会にいいのがありましたら紹介していただいて、役に生かした</p>

小牧会長	<p>いと思っています。</p> <p>川元委員、いかがですか。</p>
川元委員	<p>今回は事前に資料を配っていただいたので、読んではいませんが、30数ページのもので、よく分からないのが申し訳ない。</p> <p>ただ、こういうセンターがあって、こういうことをしてますよという、やっている活動はかなり克明に書いていただいています。</p> <p>では、実際、ひきこもり、あるいは不登校、これが枚方で何名ぐらいいらっしゃるのか、把握されても報告できないこともあるのかもしれませんが、どのような実態なのでしょうか。</p> <p>さらにこういう活動をされたら、そのひきこもりだとか、不登校の方が改善されたという事例がどの程度あったのかというようなことが知りたい。書いてあったのかもしれませんが、教えてもらえればありがたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
小牧会長	<p>よろしいですか。</p>
(事務局)	<p>子どもの育ち見守りセンターです。御意見ありがとうございます。</p> <p>変化とか経過について、それを引き継ぐということが、一つのテーマですので、とっても難しく、いつも課題にはなっているのですけれども。一応、今できる表現をとって、お伝えしている資料としては、資料2の9ページと10ページの部分にあります。</p> <p>実態というところには、枚方市としては実態調査は行っておりませんので、実際どれぐらいかというのは、最初に御説明させていただいたように、推定値ですね、国の調査からの推定値で、1,600人ぐらいじゃないかなというふうには出しております。実際としては、まず、ここに相談につながってくださっている方が、年間で100ケースずつぐらいあるということは、一つ実際ではないかなというふうには感じております。</p> <p>その中で、10ページの上半分に表がありますが、分かりやすいものとしては3つ目の表ですね、令和2年度に継続的に関わったケース206件のうち39件は、再登校であるとか、就労に至っておられます。</p> <p>ただ、再登校や就労がゴールであるかといえばそれだけではない。もちろんそこを目指して、この子ども・若者が自分らしく目指して自立していけることを応援はしているのですけれども、それだけがゴールではないということで、それを表しているのが、4つ目の表です。終結時の状況というところです。</p> <p>そちらは、継続的な関わりをしたケースで、令和2年度に終結した37件の終結時の状況を表した表になっています。相談支援が終わったときの状況ですね。</p>

	<p>表の一番右側、64.8%の方が就労や就学の状態の表になっている相談が終わっています。6割の方は、そのような状況で相談が終わっています。ただそれだけではなくて、その表の真ん中、家族以外の他者や社会資源や居場所につながっている状況で、相談支援が終わった方という方も18.9%、37件あります。</p> <p>つまりは、就労には至らなかったけれども、SOSを出しているところに、どこかにつながっている。つまり孤立状態ではないということですね。その状況で、御家族とある程度話し合いをした上で、一旦相談のほうは終わらしましうかということが終わっているような感じです。</p> <p>残り16.2%が主に自宅での生活をしている状況で、相談が終わるというケースもございます。こちらは、自宅での生活で、経済的に御家庭の状況で何とかなっている、もしくは、日常生活を自分でこなせている。必要なお買い物だったり、手続だったりということが出来る状態。ただ、自宅での生活が中心な状況ではあることには変わりはないのですが、一定生活が回せている状況で、相談支援が終わるといいうような、そんなケースもあります。</p> <p>いろんな背景をお持ちですので、精神疾患であるとか、障害をお持ちで、サービスにつながった状況で相談が終わるといいうこともありますし、そんなふういろんな状況で、相談が終わるといいうような状況があります。</p>
小牧会長	<p>ありがとうございます。 野澤委員、お願いします。</p>
野澤委員	<p>自殺の件について、ちょっと私なりの考えたところを述べさせていただきたいと思います。</p> <p>この頃というか、大分前からですけど、核家族の家庭が多くなったり、それから、生活そのものがアウトソーシングする、出産にしる、結婚式にしる、お葬式にしる、全てほかの会場でやるというようなことで、身内の人のお葬式に遭遇する、立ち会うという子どもたちが、非常に少なくなっていると思うのですね。</p> <p>一方で、ゲームなんかはものすごく生活の中に入り込んでしまって、ゲームオーバーしたら、またスイッチを入れれば、またできるということで、小学校の5年生、6年生ぐらいの子どもたちに、人間は生き返るかと聞いたら、生き返るといいう答えをする子どもたちが多いといいうような調査も出ています。</p> <p>やはり身内の人の死、厳粛な状況に立ち合わせるといいうことは、私は非常に大切だと思うのですね。いろんな命の教え方があると思うのですけれども、身内の方のお葬式、死に直面して、厳粛な、身内の人全部と一緒に悲しんでいる、そういうところに小さい子どもたち、幼児からでもいいです。年齢とか、早過ぎるといいうことはないと思うのですね。遅過ぎるといいうことはあっても、早過ぎるといいうことはないと思うので、そういう立場に、子どもたちをできるだけ立</p>

ち会わせてあげるということは、一つ大切ではないかなと思います。

それから、実際に自殺を考える子というのは、本当に真剣に考えているのです。私たち大人が考えている以上に、子どもたちというのは必死に生きているのです。その子どもたちに対して、私たちが曖昧なことで済ませるということが子どもに対して失礼だと思うのです。全ての子どもを、やっぱりケースごとに大切に扱っていかなければいけないというふうに、私自身も思っております。

自殺については、それだけなのですけれども、私はコロナでなかなか外を回れなかったのですけれども、この4月と7月に子ども食堂のほうを3か所ほど回らせていただきました。コロナのために、親子でその場でたくさんで食べるということができなくて、ほとんどが弁当を作って配っているというような状態です。

その弁当になったのを、子どもたちが喜んで取りに来て、数もどんどん増えて、ふつうは20食ぐらいだったのが、50とか60とかお弁当を取りに来るので、全部にやっていたら、間口を広げ過ぎたと皆さんおっしゃっているのですけれども、お弁当をそのように喜んでくれるから、それはそれでいいのと違うかなと言うのです。

一方で、それに携わるボランティアの方たちの御意見では、この先はどうなるのか、本当に初期の目的、本当にニーズのある子どもたちに、子ども食堂で温かいものを食べてもらって、ほっとしてもらって、また生活の活力をもってもらおうという、本来の目的というのは、どうなったのだろうと思います。この先、コロナが収まって、また広場的に親子でまた食べるということが、果たしてできるのかどうか、お弁当はもちろん配らないといけないだろうし、もらいに来る子がいる限り、作らないといけないだろうし、本当にボランティアの人たちは全部が疲弊してしまっていて、自分たちがやっていることって、どういうことなのだろうということを言っておられました。

本当に団体とつながっていくという、当初の目的がないがしろにされないように、私たち自身も第三者、地域の方たちも支えていかないといけないと思うのですけれども、そういう御意見があったので、御紹介しておきます。

以上です。

小牧会長

ありがとうございます。

範委員さん、お願いします。

範委員

担当者の方の報告とかを聞いてまして、私は警察なので、警察として何ができるかなということで考えていたのですけれども。

警察署のほうは、事件、事故、取締りが主になってしまうのですが、当然、特に少年の健全育成というのも、私たち生活安全課が主体となってやっております。

<p>小牧会長</p>	<p>ただですね、なかなかほかの業務もありまして、それだけを特化してするというのは、非常に難しいと思うところがありまして、十分な関係機関として機能しているのかなという、すごい不安なところもあります。</p> <p>ただ、実際、警察も一翼を担ってですね、やる必要があるということで、皆さん御存じだと思うのですが、警察署以外にですね、本部の少年課のほうで健全育成を目的として、サポートセンターとか、そのあたりがやっている実情ですね。実際、私もサポートセンターに勤務したことがあるのですが、立ち直り支援とか、あと学習支援とか、その辺をやっていたこともあります。不登校で学校へ行かないけれども、サポートセンターに来て、そこで勉強をするという子も中にはいました。</p> <p>そういうことで、警察署も含めてですね、警察を利用していただいたら、子どもたちの成長を促すこともできるのかなということで、紹介させていただきました。</p> <p>私からは、以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>長谷川委員さん、お願いします。</p>
<p>長谷川委員</p>	<p>警察はどうしても、ふだんの取扱いの中で、その子をどうしていくかというところになってきます。今年はずいぶん、うちのほうで特殊詐欺が多く発生してまして、その特殊詐欺のポスターを小中学生に、夏休み期間に描いてもらうという企画をしまして、小中学校の学校長始め、教職員の皆様には非常に御協力いただきました。</p> <p>今は部活もなかなかできなかつたり、制限もありますし、友達と会う機会も少ないという中で、何かやりがいをもっていただければなど、この資料にもたくさん居場所というのが出てきますけれども、この居場所を与えられたらいいなというところで進めさせていただきました。</p> <p>ただ、どうしてもそういう学校であったり、家庭、そういう居場所を与えても、その土俵に乗ってこない子どもというのは、どうしてもいるわけで、そういう子どもであったり、成人の方もそうなのですが、警察が取り扱ったときに、どういう対応をしていけるかというところが、重要なのかなと考えております。</p> <p>ただ、ふだんからいろんな情報を、警察であれば、今はOBの方のスクールサポーターという者がおりまして、各小中学校を回って情報を集めたり、ふだん交番での取扱いで、いろんな中で出た情報を集めたりして、いざ、いろんな少年を初めに取り扱ったときに、その事案だけではなく総合的に判断して、どうしていくのかというのを見極めていく必要があります。</p> <p>結局、今はコロナもあるのですが、その最初の見極めを間違えると、いわゆる家庭に問題があるのか、本人に問題があるのか、もしくは、その他いろ</p>

<p>小牧会長</p>	<p>んなところに別の部分で、その少年がひきこもりもはじめ、非行であったり、軽犯罪に巻き込まれたりといった、いろんなことがあるのですけれども、その辺の見極めを間違うと、間違いなくもう一回来ます。</p> <p>きっちりとやったからといって、それなら、もうその子は立ち直れるかという、そんな簡単なものではないのですけれども、最初の見極めを間違うと、必ずまた来て、それがただ2回来ただけだったらいいのですけれども、結局それ以上のことを犯したり、もしくは、大きな被害に巻き込まれたりということがありますので、警察としましては、できるだけいろんな関係機関の方から情報を集めて、適正な対応をしていくことが重要なのかなと思っております。</p> <p>また、警察でなかなか対応が難しいものについては、どうしても関係機関の皆様へ引継ぎをしていただくということになりますので、今後ともよろしくお願ひします。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>羽室委員さん、お願ひします。</p>
<p>羽室委員</p>	<p>ハローワークとしてということじゃないのですけれども、ちょっと事務局のほうにも、確認をさせていただきたいなと思うのですが、まず、数点ありまして、自殺の関係のほうです。</p> <p>全国の数字がありまして、枚方市における自殺の件数であるということで、全国1億2,800万人ということで、枚方市を40万人と考えたときなのですが、人口に対する自殺者数の割合は低いのかなと思うのですが、大体0.3%ぐらいが、人口の比率なのかなと思うのですが、実際件数としては、0.2%台になっていると思います。その中で、最近というか、令和2年のこの増加の要因のところ、これは高齢者の方の自殺が増えたのでということによろしかったですか。</p> <p>ここの検討する場合は、子どもと青少年なので、ちょっと自殺というところで、数字だけですと大変申し訳ないのですけれど、令和2年のこの数字の増加という部分に関しては、先ほどの説明にもありましたように、高齢者の方で特に女性の高齢者の方が増えたというふうに関こえたのですね。</p> <p>ということは、全国の人口の割合に比べて、枚方市さんは割合が低いというので、比較的子どもだったり、若者に対する支援というのは、十分とは言いませんけれども、よくできているかなと思ひました。</p> <p>ここでこういうお話をすべきではないのかもしれないのですが、説明の中で聞いていると、そういうふうに関こえましたので、今後は若者だけではなくて、自殺の対策ということで行くと、少し目を変えて、高齢者の方々に対しても何か支援という部分も必要になってくる。特にこの新型コロナというところで、健康対策、健康の問題というのがありましたから、これはここ1、2年だ</p>

けの特殊な要因なのかもしれないですけど、これがいつ収束するのかというのは、当然分からない中なので、この自殺の対策という部分でいきますと、少しちょっと目を変える必要も出てくるのかなというふうに感じました。

それと、自殺とは違いまして取組の計画のほうでございます。

ひきこもりのほうの関係で、先ほど枚方市においては、アンケートとか、調査なんかも実施をしていないので、試算値ということでおっしゃられたと思います。全国的に54万人で、枚方市が15歳から39歳の年齢層の人口で試算すると、1,668人というふうにおっしゃられたのかなというふうに思います。

これは1歳当たりでいくと、大体67人ぐらいになると思うんですね。ということは、毎年、毎年67人ぐらいがそういう新規で新しい方が出てくるのかなというふうに思うんですが、先ほど支援終了者の人数なんかをちょっと確認をしたところ、大体70人ぐらいになるのですかね、68人の辺ぐらいということなので、これ、数字だけでは見れないのかもしれませんが、大体割合でいうと67人ぐらいの新規というか、年齢層の方々が毎年、毎年支援が終了していつているので、増えることもなく、逆に言うとも減ることもなくということなのかなと思っていたのですが。

新規の相談件数を見てますと、昨年までですけど150件あります。ということは、たまたま、令和2年はそういう新型コロナの関係もあって、相談するツールがちょっと限られていたので、70数件に収まったのかなと思います。

じゃあ、そのしわ寄せが、今後、令和3年なんかに出てくるのかなとかというところを、個人的にどうなっていくのだろうかというふうに思いました。

それと、やはり新型コロナの関係で、ハローワークの業務もそうなのですけども、オンライン化というふうになっています。学校も恐らく休校だったりということで、オンラインでの授業などが、今は主流にというか、そういう方向に進んでいつていると思います。

そうなりますと、わざわざ学校に行かなくてもいい、わざわざハローワークまで行かなくてもいいという方が、やっぱり増えてくると思います。

ということは、結果、ひきこもりという定義というか、これまでのひきこもりの定義とは異なってくるのかもしりませんが、外出をする方々というのが減るというか、自宅で完了しようとする方々が増えてくる。準ひきこもりという言い方がいいのかどうかは分からないですけど、そういう方々が増えてくるのではないかなというふうにも思いますので、今後、オンライン化、デジタル化、DXというような動きが、必ず後退することはもうないと思いますので、デジタル庁というようなことなんかも、新たに考えられてますから、それに対応するような支援という部分を、今後やっぱり新たな支援策というのを考えていかないといけないのではないかなと思います。

今回、この計画ということでしたから、実績でこういう取組を行われました

<p>小牧会長</p>	<p>ということですがけれど、今後そうしたら、それに対応するにあたって、どう新しく何か対策を考えられているのかというのは、今後こういった委員会の場で、何か提案というか、そういうお話をいただければ、非常にありがたいかなというふうに思います。</p> <p>以上です。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>何か、ありますか。</p> <p>新規対策の話があったのですけれども、令和2年度について、すごく少なかったです。緊急事態宣言が出ている間は、月に1桁台とかでした。解除されると、月に10件とかというふうに、例年度くらいの水準に戻るといふようなことで、本当にそれとともに、増減をしていた昨年度でした。影響は大きかったなと実際感じています。</p> <p>おっしゃっていただいていたように、だからと言って、ひきこもりや不登校の課題がなしというわけじゃないので、今後、出てくるだろうということを見越して、今年度、来年度の支援を考えていったらなというふうに思っています。</p> <p>これに対しての対応というところで、現在動き始めているのが、昨年度はこの状況において、いかに支援を維持するかというところで、オンラインを活用したりするなどして、御相談をお願いし、居場所を完全にはやめないということを取り組んできました。今年度は、昨年度相談につながれなかった方たちと、いかにつながるかというところで、情報を届けるかというところで、市民講座の中で相談したのですね。相談窓口、こんなところが枚方にはありますよということ、関係機関のネットワークの中の皆さんと一緒に協力して、PRイベントなどを、12月に開催するというようなことを検討しています。</p> <p>そんな形で、これから出てくるであろうことも、想像しながらイベントや相談支援を考えていきたいというふうに思っているところです。</p>
<p>羽室委員</p>	<p>我々ハローワークの取組でも、つい先日なのですが土曜日に、あるテレビ番組の中でハローワークの支援についてのコメントがあったのです。</p> <p>いい支援をやっているのに、その周知が全然できていない、だから、我々はその支援を言うのはいいのですけれど、それが自己満足で終わっちゃっているというような、ちょっとニュアンスは違うのですけれど、どうしてもこういう取組というのは、自己満足だけで終わってしまっている。だから、いかに幅広くこういった支援をやっているかということ、たくさんの人に知ってもらおうかということ、</p> <p>先ほどもお話がありましたけれども、なかなかひきこもりの人というのは、その本人が相談はしにくいということですから、そういう本当に相談が必要とされている方々に対して、どう届けるか。最近であればSNSを活用して、周知をす</p>

	<p>るかとか、そういったことが必要にもなってくるかと思しますので、ぜひぜひ、いい支援だと思しますので、いろんな方向で、その支援内容を周知をしていただけたらなというふうに思います。</p>
小牧会長	<p>Skype とかも使っていただいて、非常に効果が上がっていることをお聞きしたことがあります。また、ぜひよろしくをお願いします。</p> <p>時間の関係もありますので、手短にというのは申し訳ないのですが、このところで、平岡委員、もしよろしければ。</p>
平岡委員	<p>もう、時間も時間ですので、控えます。</p>
小牧会長	<p>山中委員さん。</p>
山中委員	<p>先ほどお話をさせていただいたことと重複しますのでけっこうです。</p>
小牧会長	<p>山本委員さんは、いかがですか。</p>
山本委員	<p>先程、オンライン化の課題というのがあって、本当にわざわざ学校に行かなくてもいいのでは、ということもあります。</p> <p>実際のところ、8月末に始業式の後、こんなことをここで言ってもいいかわからないけれど、小中学校で、全校一斉に、登校することに不安に思っている人というのがオンライン化で、いわゆるハイブリッド型をやりました。</p> <p>やはり、僕らは「便乗組」と言っているのですけれど、学校に来ているから何とか持ちこたえている子というのは、たくさんいたなと感じましたね。</p> <p>だから、それに便乗してね、不安を盾に、どうせ授業が見られるしみたいなことで、学校に来ない。だから、学校の役割を改めてちょっと考えさせられたなというのがあります。</p> <p>学校に来て、この子は持ちこたえているのだなとか、やはりそれは不安もあるのだけれど、学校でのリアルな体験というのは必要だなということを感じましたので、趣旨は全然あっていないかもしれませんが、そんなことを思いました。</p>
小牧会長	<p>花房委員。</p>
花房委員	<p>はい、特に。さきほど話したことで大丈夫です。</p>
小牧会長	<p>木田副会長、どうでしょう。</p>
木田副会長	<p>保護司会も、昨年度と一昨年度とコロナの関係で、みんなで集まる定例会だとか研修だとかが、全部中止になっておりまして、なかなか横のつながりの情報が</p>

	<p>入らないということがあります。</p> <p>情報としては、観察処分になった子が自分たちのところにやってくるという、処分対象の子について、その背景である家族が、いろんなことを話していくわけですけど。それも観察所のほうからの通達がありまして、熱を測って、微熱があるようだったら会わないで、電話対応にしてくれと言われます。</p> <p>電話対応というのは、私は、今まであり得ないと考えていまして、やっぱり真剣にやってきますと、その子の顔色、そのときの服装だとか、態度だとか、目つき、うろうろするとか、そういうところで、そこをずばっと聞くわけではないですけど、「今日は何か落ち着けへんの？」とか、何かそういうところからアタックしていく中で、昨年度、一昨年度と非常に難しい状況が続いております。</p> <p>やっと緊急事態解除になって、やってくるわけですけど、長期にわたって保護観察する人は、大体人柄がつかめているので、何となく、電話でできるのですが、新件に至ってはとんでもない話で、「どう、元気にやっている?」、「ああ、元気、変わらない」となってしまって、とてもとても保護観察とは言えないので、入れてはいけないと言われていながら、ちょっとの時間だけ部屋に上がって話すというふうにやりくりしてやっています。</p> <p>でも、やっぱりその子どもだけの問題ではなくて、警察の方や学校の先生もよくよく御存じだと思いますが、御家庭の問題がたくさんあります。その中で、そのところをほぐしていくというか、本人が家族との関係でいっぱいたまっているところで、罪を犯してしまっていることが多いので、やっぱりそのところをしっかりと聞いてやるということは、いつも大事ななと思っています。</p> <p>それで、コロナの関係でいえば、やっぱり仕事が時短になってしまって給料が少なくなるから、別個にアルバイトで、夕方5時ぐらいからでも行けるようなお店に行くわけです。そのお店も閉まってしまうということで、本当に収入で困っている。お金に困ると、また大変な思いをするのでね、早くコロナが収束してくれればと願っております。</p> <p>すいません、このひきこもりのこの中で、育成計画の20ページの細かなことなのでですけども、1つだけお伺いしたいのですけれど、ひきこもり予防としての不登校対策、中退予防の推進のところの7個目です。子ども・若者の学びなおしの支援として、枚方市日本語・多文化共生教室「よみかき」の活用を検討と書いてありますが、これはどこまで検討されているのか、私はこれに関わっていますので、状況をお聞きしたいと思っております。</p>
(事務局)	はい。
小牧会長	いつからとか、そういうのは分かりますか。
(事務局)	実際、なかなか難しくてですね。実際の検討や設計というところまでは至っていないのが現状です。

木田副会長	<p>新聞報道でね、夜間中学が地方でできだしたとか、ここに不登校だとか中退の子が、勉強ができる状態というのを作ってあると報道を見ましたので、この項目はどうなっているのかと思って、お聞きしたかったのです。ありがとうございました。</p>
(事務局)	<p>24ページが一番下の段落なのですが、こちらのほうに、「よみかき」事業という形で、記載させていただいております。延べ実施回数は327回です。</p>
木田副会長	<p>この状況は、私は現場に入っていますので分かっているのです。 外国からやって来ても、就学期の子は入れないとかね、そういういろんな制約があるので、どんなふうに進んでいるのかなと思っただけです。 ありがとうございます。</p>
小牧会長	<p>いろんな御意見をいただいてですね、私のほうからも、回答になるか、どうか分からないのですけれど、基本はやっぱり対面だと、もちろん思っています。先ほどの教育の現場を見てもそうです。 基本は対面であるというのは間違いはないですが、ただし、そのSNSの活用であるとか、それによって少しでも子どもたちが何かしら話す場を広げることができたりとか、そのきっかけとしては、できるだけいろんなものがあつたほうがいいのかと思います。 この前からのお話ですが、SNSとかいろんなものは、我々のような歳がいった者が言っても、なかなか進まないものがあります。やっぱり子どものほうがよっぽど進んでいたりします。その現状をどうやって把握して、それをうまく活用していくのかというのが、今やり始めてくださってるというのは、前にちょっとお聞きしたのですけれども、それは、すごくありがたいことかなと思います。 やっぱり、どうしても我々からしたら、印刷したりとか、物を多く読むとかというのが中心になるけれども、なかなかそうはいかないこともあつて、やっぱり子どもの変化にうまくついていくのかという、そこに合わせた、広がりでもいいかなというか、それが一つヒントになるのかなというふうには思いました。 もう一つはですね、これも当たり前のことなのですが、兆候であるとか、自殺でもそうですけれども変化に気付くということが大事だと言われているのは、もちろん御存じのとおりなのですが、結局、周りの大人のほうが、その変化に気付いているのかということが、先ほども出てきました、相談できる大人になってほしいというお話です。みんなが相談できる大人になったら、本当はいいですね。 ところが、なかなか自分たちの仕事が忙しかったり、いろんなことで、子どもに本当にきちっとコミュニケーションが取れているのかとか、結局はまたそこに戻ってくるのかなという気がするのです。</p>

だから、結局自分の子ども、あるいは周りの人、広く言えばそういう人たちと、本当に目を合わせて、ちゃんと話をしていますかという。余裕はそこまでは、みんなないと言って、知らないうちにそういうふうにしてしまっているのは、もちろんよくない。

だから、結局はやっぱりそういう親子のコミュニケーションも、もちろん含めてですけども、3次、2次、1次の話も何回もしていますけれども、どうやって1次のところで、いい環境を少しでもつくっていくのかということです。それは効果なんかは、見えないですよ。ただし、それがすごく大事なかなと思います。3次のところで対応していても、やっぱり遅いのです。

そういうためには、ここはものすごく頑張っているのは、非常に見させてもらっても、よりよく理解しているつもりなのですが、なかなかここまで、やっているところはないと思うのです。それぞれの場ですごくやっていたいでいるのが分かるだけに、それを先ほども御指摘されていたように、どうやってみんなに知ってもらうのかということですね。

そういうことも含めまして、何とか大人の、子どもの気持ちを察する力みたいなものが低下してきているのは間違いがないですし、子ども同士ももちろんそうですけれども、マスクで表情は読めません。だから、それも我々みんなが実感しているところです。

だから、そのあたりがどうやって、いろんな方法でそれを皆さんに知ってもらって、それを活用してもらうのかというのが、行政のほうでも、ぜひ、また今後いろいろと検討していただきたいなというふうに思います。

そうしましたら、活発な議論をいただいているところですけども、これぐらいにさせていただきたいと思います。

本日は委員の皆様方から、さまざまな貴重な御意見をいただきました。今後事務局においては、委員の御意見を十分に踏まえながら、計画的な基本的な考え方があります、子ども・若者の自立に向けた支援体制の充実、また、社会全体で支援していく環境づくりを進めていただきたいということにしたいと思いますが、よろしいですか。

ありがとうございます。

それでは、案件「その他」としまして、事務局から何かありますか。

(事務局)

本日の資料等につきまして、御不明な点などがございましたら、恐れ入りますけれども、10月13日水曜日までに、メールや電話などによりまして、事務局である子ども青少年政策課まで、御連絡いただきますようお願いいたします。

また、本日の会議録につきましては、事務局で案を作成したのち、皆様にメールまたは郵送でお送りさせていただきます。皆様に御確認いただき、その結果を会長と調整し、決定したものをホームページで公表していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

最後に、本協議会の委員の皆様方の任期に関してですが、今月末の10月31日

<p>木田副会長</p>	<p>までとなっております。その中で、小牧委員、木田副会長につきましては、この度の任期満了により御退任されます。お二人には、一言ずつ、お言葉をいただけたらと思います。</p> <p>最初に、木田副会長から、よろしく願いいたします。</p> <p>木田でございます。長い間お世話になりました。皆様方の熱い熱い思い、気持ちをお聞きしながらの青少年問題協議会でございました。私の活動の中で、お陰さまでしっかりと私の背中を押してくれました。この度保護司を定年退任することになりました。皆様のこれからの御活動、健闘をお祈りします。</p> <p>皆さん、ありがとうございました。</p> <p>(拍手)</p>
<p>小牧会長</p>	<p>私もちょうど時期的に同じような期間、今まで10年間、皆様にいろいろお話を聞かせていただいて、いろんな現状を、先ほどもちょっとお話をしたのですが、違うほかのを見るとというのは、やっぱりいいですね。そういう点では、それだけでは分からないいろんなことが、学べて本当によかったと思っております。</p> <p>それから、本当に枚方市役所の皆さんは、すごくいろんな、私は勝手にいろんなことをお願いして、それをまとめていただいたりだとかということで、なかなかやりにくかったところはあると思うのですが、いろいろやっていただいてありがとうございました。</p> <p>また、ぜひとも、メンバーはまた変わりますけれども、続けて子どもであるとか、力を入れていっていただきますよう、よろしく願いします。ありがとうございました。</p> <p>(拍手)</p>
<p>(事務局)</p>	<p>お二人には長きにわたって、青少年の健全育成に御尽力、御協力をいただきました。心よりお礼申し上げます。枚方市青少年問題協議会委員は退任されますけれども、引き続きサポートいただければ幸いです。ありがとうございました。</p>
<p>小牧会長</p>	<p>それでは、これをもちまして、令和3年度第1回の青少年問題協議会を終了いたします。</p> <p>皆様、本日はお疲れさまでした。</p>